

## ◎ 1 学年

	学級担任	副担任
1 年 1 組	佐渡 一邦	今井 伸明
1 年 2 組	井上 嘉仁	平野 雅嗣
1 年 3 組	森長 新	鎌田 慶宣
1 年 4 組	柴田 亮	牛尾 一利
1 年 5 組	三井 正	朝日 太郎

### 1. 平成17年度運営目標・方針

#### 1. 1 学級活動に対する、学生の主体的な取り組みの実現

- ・学生を学科別等で班分けし、それぞれ特別活動の実施計画案を作成させ、実施した。ドッジボール、バスケットボールといったスポーツ活動から、電算室の活用、ミニミニパソコンといったものまで、多彩な活動ができた。

#### 1. 2 組織的な指導態勢の確立、活用

- ・低学年委員会によって茶髪、ピアス禁止の指導を、夏季・冬期の長期休暇明けに実施した。学習面では、様々な情報交換が有効的になされた。

### 2. 平成17年度実施計画

#### 2. 1 8:30運動の推進

- [1] 8:30にホームルームへ赴くとともに、学生の登校を促し、十分なショートホームルームが実施できるようにする。

- ・前期までは、ほぼ達成できたが、後期に入って寒くなるに従って8:35にも遅刻する学生が目立った。

#### 2. 2 良好な教室環境の保持

- [1] 掃除当番による教室環境やゴミの分別の評価報告（ショートホームルームで実施）といった、学生の主体的な取り組みによって、環境美化意識の向上をはかる。

- ・掃除は基本的に週2回実施。環境の良し悪しはクラスによって様々であったが、ゴミの分別に関しては張り紙等で学生の意識向上に努めた。また、特別活動で実施した環境講座を活用して、各クラスで様々な取り組みが行われた（分別クイズ、美化活動実施報告、環境問題の研究調査報告など）。

#### 2. 3 家庭（寮を含む）学習の促進、定着

- [1] 定期試験前に実態調査を実施するなど、各学級で方策を考え、学生の家庭学習の促進、定着をはかる。

- ・勉強の励みにもなるかと、前期は定期試験前に学習実態調査を行った。また、夏期休暇の期間については、保護者懇談会で依頼するとともに、課題の一覧表を低学年教育委員会で作成し、配布した。

#### 2. 4 読書習慣の確立

- [1] 2週間程度の読書週間を年2回程度設定し、ショートホームルームに読書の時間を設ける。

- ・読書週間を設定しショートホームルームの時間を活用したクラスもある。

- [2] 学生が図書館を積極的に利用するように、呼びかけるとともに、図書館を利用した特別活動を行なう。

- ・各クラス1回ずつ、図書館を利用した特別活動を行った。本年度の1年生は図書館利用率が低かった。この点は反省材料だが、かといって、学生に読書の習

慣が全くついていない訳ではなく、教室で文庫本を読む学生は、どのクラスでも数名見られる。

## 2. 5 組織的な学生指導

[1] 学級担任会、低学年教育委員会の活用、または専門学科、委員会、学生相談室等も含めて連携し、情報交換を行ない早期に問題に対処する。

・学級担任会、低学年教育委員会は、月1回のペースで実施した。低学年教育委員会を通して、特に寮務、学生委員会とは連携した指導が行われた。また、学生相談室と連携した指導は、どのクラスでも頻繁に行われたようである。

## 2. 6 新入生研修等の高専への適応プログラム

[1] ショートホームルーム・特別活動の時間を活用して、生活面での指導や「本科履修要覧」を用いた教務関係の説明等を実施する。

・随時実施した。

[2] 合宿研修を新入生研修の一応の集大成として捉え、教務委員会とともに主体的に取り組むとともに、学生の主体的、積極的な活動を促進、サポートする。

・校歌や整列、体操の練習は事前研修として行った。しかし、カヌー（投石、飛び込み）、ウォークラリー（サボタージュ）において一部の学生をサポート、コントロールしきれなかった。

## ○ 総合的な評価と課題

概ね目標は達成できたように思われる。しかし、反省点や問題点として残ったものもある。合宿研修は新入生研修の集大成とはいいがたく、これによって問題が顕在化し後の対応、指導に追われたのが現状であった。また、図書館の利用率の低さも、改善の余地があると考えられる。